

放射線科

部長 宮崎 延裕

COVID-19 が 5 月から 5 類感染症となり、通常モードの忙しさが戻ってきました。

人事

ER 科から放射線科に転科し、研修を行っていた平野孝士先生は 3 月で退職。2 年間で画像診断・IVR とも大いに成長し、救急医としての今後の更なる活躍が期待されます。

初期臨床研修医のローテーションは延べ 15 名（内協力型 4 名）と常時 1-2 名が在籍するのは変わらず、2 名は 2 回目、1 名は 3 回目の研修を希望されました。

学外実習では、計 9 名（高知大 3 名・群馬大 6 名）が当科を選択しました。

ハードウェア

2023 年 4 月、外来センターに待望の多列 CT(GE 社 Revolution Apex 256 列)が導入されました。これまでの 64 列 CT と異なり、1 beat scan、GSI など、ハイエンドの機能を活用することにより、患者さんの負担軽減(被ばく、検査時間)、診療放射線技師のワークフローの改善が得られるようになりました。

同時に画像ワークステーション(GE 社 Advantage Windows)も増設され、より精緻な解析を行う環境も整いました。

残るは 12 年を経過した外来 MRI(1.5T)のバージョンアップです。

検査件数

CT 件数はコロナ前の 2019 年の件数に戻り、通常モードが実感されます。

MRI はこの 5 年横ばいですが、2024 年春には乳腺外科開設が控えており、乳房の dynamicMRI が増加することによる混雑が予想され、これ以上の増件に対応するには、担当技師の増員によるスループット向上が必要となってきました。

IVR

血管系・非血管系とも前年より増加しました。非血管系はこの 5 年で継続的に増加しており、特に膿瘍ドレナージの増加が顕著です。外科の手術件数増加も一因と思われます。

全体の傾向は変化なく、血管系は透析シャント IVR、PICC、非血管系は PTGBD、膿瘍ドレナージが主体です。

PICC は特定看護師が継続的に施行することができるよう、看護部に要望はしていますが、難しい状況が続いています。

2024 年の展望

コロナ禍が明け通常モードとなったことに加え、多列 CT 導入での検査数・画像枚数増加で、読影の負担増加が予想されます。医師の働き方改革で時間外労働規制がはじまり、更なる効率化が求められる時代ですが、現状ではできる範囲で対応する以外にありません。

IVR もできる常勤若手放射線科診断専門医の確保は継続課題です。

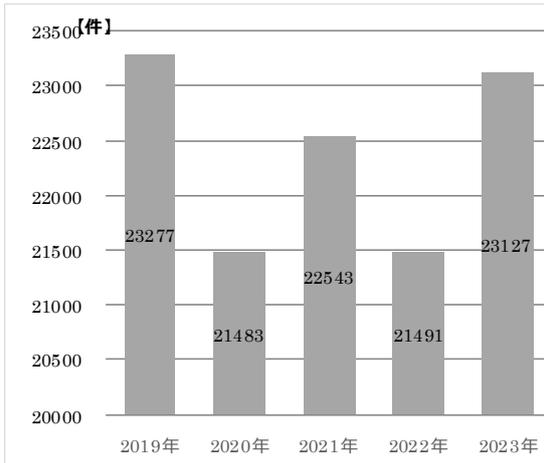


図 1 CT 検査件数 (過去 5 年間)

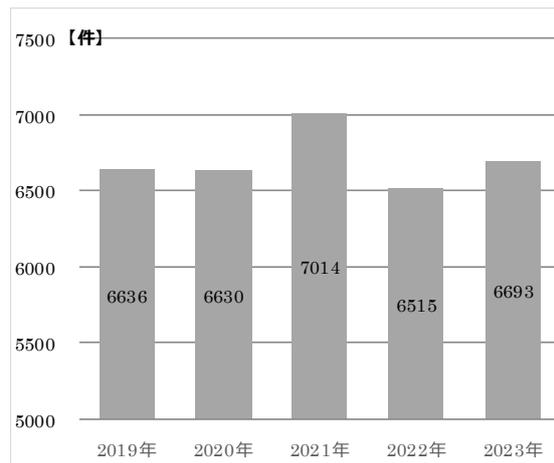


図 2 MRI 件数 (過去 5 年間)

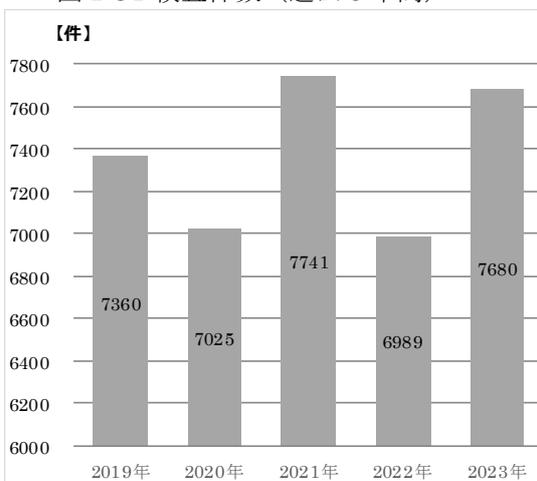


図 3 US 検査件数 (過去 5 年間)

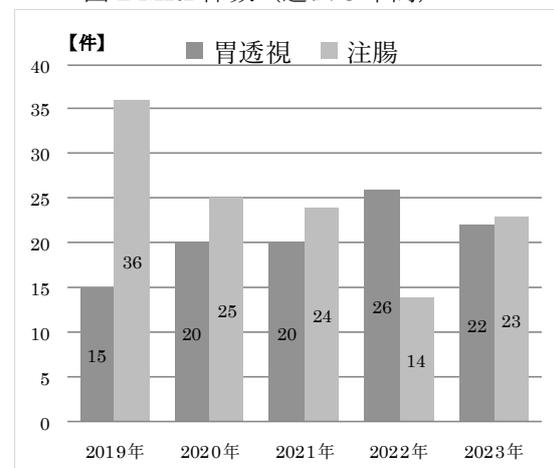


図 4 消化管造影件数 (過去 5 年間)

IVR 実施手技件数 (過去 5 年間)

実施手技名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
血管系 IVR 総計	408	456	577	494	522
シャント IVR	83	112	145	124	133
TACE(HCC)	57	47	48	53	43
TAI (HCC)	1	1	0	1	0
PSE	3	1	0	4	3
外傷・止血 TAE	45	30	56	49	51
その他 TAE (術前など)	12	11	11	6	7
脾動注療法	4	7	3	2	0
パパペリン動注療法 (NOMI)	10	8	5	9	9
末梢血管系 IVR	2	2	0	0	5
CAS	2	0	0	0	1

ステントグラフト	10	14	27	17	26
その他ステント	5	1	2	0	0
B-RTO	1	5	5	1	4
CV ポート	30	64	76	59	69
PICC	118	136	183	154	154
その他	25	17	16	15	17
非血管系 IVR 総計	120	162	182	171	211
PTGBD	35	50	53	43	57
PTCD	9	18	5	11	11
膿瘍ドレナージ(US 下)	37	34	47	57	74
膿瘍ドレナージ(CT 下)	9	20	35	28	22
胆管ステント	3	9	2	2	0
胆道その他	0	2	0	0	1
US 下生検	8	6	7	7	10
CT 下生検	10	12	13	13	13
その他	9	11	20	10	23

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
右側大動脈弓 Kommerell 憩室からの大動脈解離経過中に脳梗塞を合併した1例	田所 導子 田井 龍太 手嶋 英樹 宮崎 延裕 入江 博之	心臓血管放射線研究会	2023/1/21 愛媛
出血を呈した感染性臍壊死に対し、経皮的に24Fr大口径ドレーンを挿入することで良好な転機が得られた2例	細田 幸司 平野 孝士 清水 和人 宮崎 延裕	第59回日本腹部救急医学会総会	2023/3/9- 3/10 沖縄
心血管 CT 心電図同期も非同期も	田所 導子	和歌山画像医学会	2023/7/8 和歌山
耳介異常信号の検出に脂肪抑制 FLAIR が有用であった、再発性多発軟骨炎による辺縁系脳炎の一例	細田 幸司 田所 導子 清水 和人 宮崎 延裕	題59回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2023/9/15- 9/17 徳島
心・血管・脈管	田所 導子	第11回放射線レジデントセミナー	2023/12/15- 12/17 Web

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
心臓 MRI のいままでとこれから：心筋壁運動評価	田所 導子	臨床画像	39巻5号 Page564-569